

山名・山域	上信国境 鼻曲山
山行目的	雪山と温泉を楽しむ
山行期間	2016年12月23日～24日 小屋泊一泊二日
参加者	4名

○ルート、コースタイム

24日 金湯館 740—登山口 750—十六曲峠 830—鼻曲峠 940—鼻曲山（大天狗）1000—小天狗 1005—鼻曲峠 1020—（往路戻り）—登山口 1200—（金湯館休憩・温泉）—（送迎バス）—（横川駅）（—1502 横川駅・信越本線—1536 高崎駅・上野東京ライン—1807 横浜駅—戸塚—茅ヶ崎）

○山行記録

夜半から雪になり、温泉に加えて雪山の舞台が整う。金湯館から県道を僅か戻った処から登山を開始する。V字溝状の路は落葉でカカだ。雪が風に舞って冬山らしくなる。一登りで峠に連なる尾根上に出てこれを左にとる。この分岐は下降の際見落としの可能性（直進する）があり、目印を枝につける。

南北両面の斜面を交互にトラバースしながら標高を上げていく。風が強く、北面は雪がクラストして悪い。やがて九十九折の登りに変わり十六曲峠を通過する。右に角落山への分岐を分け緩やかな斜面の路を行く。徐々に急登になり、小ピークに取付く。木の根と枝を掴みながらピークを越え、木に抱きつきながらスリップに注意して下降すると右前方に目指す「鼻曲山」が大きく迫ってくる。降り立った処を左折し一旦南面の気持ちのいい路にでた後、北面のトラバース路に戻り、笹のトンネルと草原状の笹原を通過すると鼻曲峠手前の急登に差し掛かる。固定ロープのコブを頼りに体をグイグイ引き上げる。登りきった正面のピークは右から巻いてとめぶ山との稜線の峠に着く。

頂上は峠から20分の距離だ。直下は急峻に見えるが実はそうでもない。僅かなアルバイトで大天狗に登頂する。西に5分の小天狗からは北軽井沢や周辺の眺望が見事だ。生憎雲が低く「浅間山」は鬼押し出しの裾野のみだ。復路は往路を忠実に辿る。19人、単独、2人、3人の4パーティと夫々挨拶を交わす。途中、日当たりのいい斜面で風を遮りながら大休止とする。宿で頂いた「みかん」が驚くほど美味しい。正午、登山口に帰着。登山道全般で危険な処は無く、今回程度の雪ならアイゼン装着の必要もない。但し数年前にはワカンの必要な年も有った様で、その年々により大きく状況が違う。入山前の現地確認と中期的な天気予報の把握は不可欠だ。

○霧積温泉金湯館

パンフに依ると「カルシウム硫酸塩温泉」で古くから湯治場として知られていたとのこと。西条八十の「帽子」の一節や森村誠一の小説でも有名な山の宿だ。

横川から送迎バスに乗り、車窓からチラッと赤い屋根が見えるとそこが終点だ。当に山中、秘湯の一軒宿と言える。

年を感じさせない「声と言葉のしっかりした大女将」を支えて親子孫三代夫婦で経営している。温泉は39度の源泉かけ流しで毎分300Lの湯がジャブジャブと湧き出ている。湯が余って宿のトイレも一部温泉を使っているそうだ。

余計な注意書き「・・・タオルを湯につけるな等」が全くないのも気分が良い。

山から戻り、再度温泉に入り冷えた体を温めた後、装備を整理しながらストーブの傍でお茶や饅頭の接待を受けた。春か秋の再訪も良さそうだ。

以上

